

令和3年度 中央区立月島第二小学校 外部評価報告書

外部評価委員： 則武一光、竹内幸美、小西幸子、竹田都子、光成洋二、角田良敬、村上公一、
加藤則道、小川美佐子、三嶋 竜

報告書作成者： 神山安弘

評価時期 令和4年3月

1 重点目標の評価

○重点目標1「確かな学力を身に付けさせる教育活動」について

評価指標1「児童は学習することの楽しさを感じながら主体的に学び、課題を解決する力を身に付けることができたか。」は、保護者の11%が「改善を要する」「緊急に改善を要する」と回答している。設問に「学習することの楽しさを感じながら」とあるように、児童が授業を楽しいと感じることができる授業を実践するために課題を分析・考察し、次年度への改善策を明らかにする必要がある。

評価指標2「児童は個に応じた指導の工夫により、基礎的・基本的な学力を身に付けることができたか。」は、保護者の7%が「改善を要する」と回答し、19%が「わからない」と回答している。約20%の保護者が個に応じた指導の工夫について理解をしていない原因を考察する必要がある。教職員の授業改善への意識の課題や保護者への啓発の課題などを明らかにし改善策の考察が大切である。

○重点目標2「豊かな心を育む教育活動」について

評価指標1は82%、指導指標2は84%と保護者は肯定的な回答をしている。しかし、保護者の17%が挨拶や礼儀正しさについて「改善を要する」「わからない」と回答している。挨拶や礼儀正しさは、人格を形成するための基本であり、豊かな人間関係を育むため根幹である。学校教育のあらゆる機会を通して、挨拶や礼儀について指導することが求められる。そのために、学級経営方針の確認や道徳の授業などを分析・考察し、改善策を明らかにすることが大切である。

○重点目標3「健やかな心と体を育む教育活動」について

評価項目1「児童はなわとびコンクール等の体育的取組を通して、自己の目標に対して粘り強くやり通すことができたか。」は、保護者の15%が「改善を要する」、5%が「わからない」と回答している。この設問は、保護者の視点が前段の児童のなわとびコンクール等の体育的取組に着目したのか、後段の自己の目標に対して粘り強くやり通すに着目したのかで評価の理解が異なる。マイスクールスポーツ「なわとび」の技術の向上を図ることか、目標に対して粘り強くやり通す力を育むことかで対応が大きく異なる。児童の学校生活から実態を分析・考察し改善策を明らかにする必要がある。

2 今後の改善に向けた意見

保護者のアンケートにおいて、全ての項目において一定程度の評価を得ていることから、今後とも継続しながら改善を図ることが大切だと考える。今後の改善に向け次の3点を述べる。

- (1)自己評価に教員による評価が実施されていないため評価方法の改善を図る。
- (2)保護者アンケート設問9、設問14の評価結果から、児童が直面する多様な問題について学校として教員、管理職、スクールカウンセラー等が連携を図り対応する体制を確認し改善を図る。
- (3)タブレット端末を活用した標準的な授業を実施するため教員研修の充実を図る。

3 その他の意見

- ・若手教員等の増加にともない教員に指導力の差が生じており、指導力向上への取組を期待したい。
- ・コロナ禍で学校教育を推進している管理職をはじめ教職員の尽力に心から感謝を申し上げます。

令和3年度 中央区立月島第二小学校 外部評価報告書

外部評価委員：則武一光、竹内幸美、小西幸子、竹田都子、光成洋二、角田良敬、村上公一、
加藤則道、小川美佐子、三嶋竜、神山安弘、細谷美明 ※敬称略

報告書作成者：細谷 美明

評価時期 令和4年3月

1 重点目標の評価

重点目標1について(確かな学力を身に付けさせる教育活動)

学校の自己評価報告書にあるように、授業全体や個に応じた指導に対して児童や保護者から高い評価を得ているが、「改善を要する」など厳しい見方をしている保護者がいることも事実である。振り返りなどコース別指導や主体的に課題を解決する学習において形成的評価を多く導入するなどの工夫が必要ではないかと考える。

重点目標2について(豊かな心を育む教育活動)

「豊かな心」に関連したアンケート結果に関してはおおむね満足できる数値が出ているようだが、保護者・児童とも「あいさつ」に関してはやや厳しい見方があるようだ。コロナ禍においてコミュニケーションに対する一定の制限があったため物理的にも心理的にも児童にブレーキがかかってしまったのかもしれない。

重点目標3について(健やかな心と体を育む教育活動)

昨年度同様、コロナ禍での様々な規制下での体育的活動の実施には多くの困難があったと思うが、体力づくりに関しては教職員だけでなく地域・保護者の知恵を結集して新たな指導の在り方を考え今後とも努力を続けてもらいたいものである。

2 今後の改善に向けた意見

今回特に気になった点は、児童や保護者からの相談に対する学校の対応についての評価がやや厳しいことである。そのことは学校もよくわかっているようだが、児童の「学校に行くのが楽しいですか」に対し約2割の児童が否定的であることはコロナ禍であっても学校は緊急に検討すべきであろう。児童の話を傾聴することをこれまで以上に重視していてもらいたい。

3 その他の意見

学校からの報告を受け、児童数が増える一方で限られた時間内で実施しなければならない業務が多く、余裕がもてない状況が見取れる。人員の増加も必要だが、報告・連絡・相談が学年・学校の組織内で円滑にできる方法を検討する必要がある。口頭での「報・連・相」もよいが、緊急時でなければカード等の活用も有効ではないか。内容の整理ができ分析もやりやすい。

タブレットの有効活用についてはO J Tによる個人の積み上げと組織内の情報共有化が大切である。